

都道府県別賞一等

保険は未来の支え

岩手県 釜石市立釜石中学校 一学年

川端 俐湖

私は、「保険」に興味を持ったことはありません。母と祖母が保険について話している姿を何度か見たことがあります。しかし、私には関係ないと思い、話に加わることはありませんでした。

私には、将来の夢があります。その夢を叶えるには、大学に行って学んだり、自分自身の体を健康に保っていかねばなりません。そのために必ずお金が必要になります。そこで、母が私の将来のために加入している保険と保険の大切さについて教えてもらおうことにしました。

母は、私が幼いときから、大学に行けるように学資準備のための保険に加入してくれていました。また、祖母は病気やケガに備えて、入院保険に加入してくれていた時期があったと教えてくれました。そして、私や兄弟も保険のお世話になったことがあるということも教えてくれました。

兄は幼い頃、病気で二回入院したことがあります。このときの入院や治療のためのお金は、保険で支払ったそうです。また、私が新型コロナウイルスにかかってしまったときも保険が下りたと母から聞きました。

私はまだ、十数年しか生きていませんが、保険にとっても支えてもらって生活していることを知り、保険は私の未来を支えてくれるんだなと感心しました。

私は、この保険の大切さを知って、思ったことがあります。それは、将来の夢は決まっても、自分自身のこれから先の生活について考えたことがなかったということなのです。

現在、人生百年時代と言われることが多くなってきました。しかし、思わぬ事故やケガ、病気になってしまうこともあります。また、結婚して、新しい家族ができて、子供を育てあげるといふ道に進むと、私が子供たちの未来のための土台をつくっていかねばなりません。そのため、家族のことを考えて生活していかないと将来のお金や安心感も失ってしまうかもしれません。

このように未来を考えてみると、心配なことやこれから背負う責任が多くあるのではないかと予測できます。そのようなことを想定して保険に加入したり、お金を使っていくことで、将来、私も、そして家族も安心して生活できると思います。

今回、初めて「保険」について、親から話を聞いてみて、母は私が幼いときから保険に加入し、私の将来と兄弟の将来を考えてくれました。また、私たち

## 第62回中学生作文コンクール

の様々な人生のプランを想定して、保険に加入していかれたおかげで、私は安心して不自由なく過ごせているということが分かりました。そして、保険は、私たちの将来、夢、健康に常に寄りそい、私たちの人生と未来を支えてくれる一つの手であり、とても大切な存在であるということが分かりました。

しかし、その支えてくれる力に頼り過ぎたり、いろいろな保険に多く加入していたりするのではなく、自分の将来を自分で支える力を大きくしていく必要があります。また、加入している保険が必要かどうかを判断し、お金をどの保険にあてるかを考えることも必要になります。ただ保険に加入するのではなく、工夫して、保険を利用することが大切だと思います。

私が、教えてもらったこの知識は、自分の人生設計の材料となる大切な知識の一つです。この知識をどのように活用し、どのように未来に役立てていくかを考えて、これからの人生を過ごしていきたいです。